

平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成16年5月27日

発表：福島県病害虫防除所

病名 シクラメンえそ斑紋病 (*Impatiens necrotic spot virus*)

1 発生の状況

平成15年12月に、浜通り地方で栽培されているシクラメンにおいて、葉にえそ症状が見られる株が発生した。ELISA法により検定を行ったところ、県内では初確認であるINSVが検出された。なお、このほ場では平成14年7月にも同様の症状が見られていた。

本ウイルスは多くの植物に感染する可能性があるため、注意が必要である。

2 病徴

本ウイルスに感染した植物の症状は、葉におけるえそ（えそ斑紋、えそ斑点、えそ輪紋、えそ条斑）、黄化、モザイク等で、病徴からは、TSWVとの区別は困難である。

3 発生生態

本ウイルスはミカンキロアザミウマが媒介し、種子伝染、土壌伝染はしないとされている。

また、トマト黄化えそ病の病原ウイルスである *Tomato spotted wilt virus* (TSWV) と同じ *Tospovirus* 属に属し、花き類を中心に多くの植物で感染の報告がある（横浜植物防疫所発行の病害虫情報NO.32参照）。

4 防除対策

(1) 本ウイルスの媒介虫であるミカンキロアザミウマの防除を徹底する（表1）。

表1 シクラメンのミカンキロアザミウマに適用のある主な防除薬剤(平成16年5月24日現在)

薬剤名	使用濃度	使用時期	使用回数
パダン水溶剤	1,000倍	発生初期	5回
パダンSG水溶剤	1,500倍	発生初期	5回
エビセクト水和剤	1,000倍	発生初期	5回

注1) 上記の剤は、蚕に長期間毒性があるので、合成ビニルシート系殺虫剤等使用規制地域では使用しない。

注2) 使用回数は本剤の使用回数で、成分毎の総使用回数を確認の上使用すること。

(2) ハウス開口部を防虫ネット等で覆いミカンキロアザミウマの侵入を防ぐ。

(3) 罹病株は伝染源となるので見つけしだい抜き取り処分する。

(4) 周辺作物や雑草などは媒介虫の増殖場所、および本病の伝染源となりうるため、防除や除草を行う。

(参考)

1 INSVが感染可能な主な植物(病害虫情報NO.32(横浜植物防疫所発行)より)

科	植 物
キク科	レタス、ガーベラ、シネリア、デージー、キク、ダリア、マリゴールド、ソリダゴ、ムギワラギク
ナス科	ジャガイモ、トマト、トウガラシ、クコ、タバコ、ペチュニア、ダチュラ、シザンサス
シソ科	スイートバジル、西洋ハッカ、サルビア、コウリス、モナルダ、カクトラノオ、モルセラ
ゴマ/ハグサ科	ジキタリス、キンギョソウ、カルセオラリア
ユリ科	タマネギ、ユリ、オモト、ドラセナ、キボウシ
イワタバコ科	グロキシニア、セントポーリア
ユキノシタ科	アジサイ、ユキノシタ
ツリフネソウ科	ニューギニアインパチェンス、インパチェンス
フクロウソウ科	ゼラニウム、ツタバテンジクアオイ
キンポウゲ科	アネモネ、デルフィニウム、ランタンキュラス
アブラナ科	マ加里バナ
サトイモ科	シンゴニウム
ベンケイソウ科	カラシコエ、セダム
クマツツラ科	バーベナ、ランタナ
リンドウ科	トルコギキョウ、エキザカム
アヤメ科	アイリス、グラジオラス
サクラソウ科	プリムラ、シクラメン
ツツジ科	アザレア
マメ科	エンドウ
バラ科	カナメモチ、シャリンバチ
ヒユ科	ケイトウ、センニチコウ
キキョウ科	カンパニユラ
アカネ科	クチナシ
コショウ科	ペペロミア
ヒガンバナ科	ユーチャリス
ケシ科	ケシ
アルストロメリア科	アルストロメリア
シュウカイドウ科	ベゴニア
スベリヒユ科	マツバボタン
モチノキ科	モチノキ
キョウチクトウ科	ニチニチソウ
キツネノマゴ科	アフエランドラ
ツユクサ科	ムラサキツユクサ
ラン科	

2 現在までの本ウイルスによる病害の発生報告について

平成11年	静岡県	: パンペナ
	岡山県	: シネリア、インパチェンス、ペゴニア、トマト
	福岡県	: インパチェンス
平成12年	秋田県	: トルコギキョウ、インパチェンス、ニューギニアインパチェンス、シクラメン
	神奈川県	: フロックス、ミラス
平成13年	栃木県	: シクラメン
	山口県	: シクラメン、ペゴニア
	長野県	: トルコギキョウ
	山梨県	: シクラメン
	群馬県	: シクラメン
平成14年	千葉県	: インパチェンス、トウガラシ、ペチュニア、ペゴニア、カサネソウ、クリスマスローズ、トリア、シクラメン
	長野県	: ピーマン
平成15年	宮城県	: シクラメン
	埼玉県	: シクラメン
	佐賀県	: インパチェンス、ディアスキア、ネメシス

3 病徴写真

